

競技・審判上の注意

- 1 この大会は、平成 29 年度全国中学校体育大会、第 47 回全国中学校バドミントン大会要項、参加細則、平成 29 年度（公財）日本バドミントン協会競技規則、大会運営規程および公認審判員規程により行う。
- 2 審判は大会本部にて行います。サービスジャッジは準決勝からつけるものとし、その他の試合は原則つけません。線審は 2 人編成で行い、準決勝、決勝についてはコート 4 人編成で行うものとする。
- 3 タイムテーブルに基づいて試合を進行する。進行状況により予定された試合の開始時刻やコートを変更することがある。（開始予定より早めることはない。）
- 4 試合が連続する場合は、前の試合の後 15 分間を確保して次の試合を開始する。
- 5 団体戦でベンチに入れるのは、監督、エントリーされた選手、コーチまたはマネージャーとする。
（IDカードを必ず身につけること）
個人戦でベンチに入れるのは、監督とともに、団体戦登録者（コーチ・マネージャー・選手）または入場許可を得た者の計 2 名までとする。（IDカードを必ず身につけること）
ベンチに入る時の服装（監督、コーチ）はマッチ（試合）にふさわしい服装で臨むこと。上衣は、シャツ・ポロシャツ・ブラウス、下衣は、長ズボンまたはスカートとし、ジーンズやビーチスタイル、バミューダ、ショーツ、スリッパとサンダルは禁止とする。（公認審判員規定第 3 条第 5 項第 6 号）
※なお、本大会では七分丈パンツは認めない。
- 6 団体戦については、試合の進行状況により、最初から 3 コート並行で実施することがある。団体戦は 2 試合（マッチ）先取で打ちきりとする。
- 7 各試合（マッチ）のインターバルは次の通りとする。
 - ① すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが 11 点になったとき、60 秒を超えないインターバルを認める。
 - ② 第 1 ゲームと第 2 ゲームの間、第 2 ゲームと第 3 ゲームとの間に 120 秒を超えないインターバルを認める。※ ①②ともに、主審の「…20 秒」のコールで選手はコートに入り、ゲームに備えること。
- 8 シャトルがインプレーでないときに限り、プレーヤーはマッチ（試合）中、アドバイスを受けることができる。プレーの遅延行為とならないよう、十分に注意すること。
- 9 インターバル中に、同時にコート内でアドバイスできるのは 2 人までとする。
※ プレーヤーがエンドを変えた後にアドバイスをし、主審の「…20 秒」のコールでコートから離れなければならない。（所定の席につくこと）
- 10 以下の違反をしたサイドに主審は警告をする。一度警告を受けた後、再び違反した場合は、そのサイドをフォルトとする。一つのサイドによる警告後の同種の違反行為によるフォルトは執拗な違反とみなされる。
 - 体力や息切れを回復するためのプレーの遅延
 - アドバイスを受けることによるプレーの遅延
 - インプレー中にアドバイスを受ける違反（監督・コーチに対するもの）
 - インターバルを除いて、主審の許可なしにコートを離れる違反
 - プレーを故意に遅らせたり中断したりする行為
 - 故意にシャトルに手を加えたり破損したりする行為
 - 審判員や観客に対しての横柄な振る舞い、下品で無礼な態度、言動
 - 見苦しい服装でプレーをすること
 - ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩くこと
 - 耳障りな掛け声や叫び声を発すること
 - 競技規則を越えた不品行または不快な行動

- 11 水分補給、汗ふき、靴ひもの直し、滑り止めの使用については下記の点に留意し、必ず主審の許可を得てから行うこと。
 - 水分補給の際は支給されたスクイズボトルを使用すること。スクイズボトルはコートサイドのカゴの中に置いておくこと。
 - 氷嚢の使用はインターバルのときのみ認める。また、フロアー内への大きなクーラーボックスの持ち込みは禁止するが、ベンチの下に入るような小さいものは、ベンチ内までの持ち込みを可とする。ただし、フロアーを濡らすことのないように十分注意すること。
 - うちわについては、インターバル時のみ使用を認める。ただし、叩くなどの音を出す行為は、いかなる場合でも禁止とする。
 - シューズの滑り止め（シューダスターボートなど）はコートサイドへの持ち込みを可とするが、置いたままにしないこと。使用はインターバルのときのみ認める。また、グリップパウダーなどのグリップの滑り止め剤の使うタイミングについては、汗拭きと同様とする。コートサイドのかごに入れてもよいが、使用や保管の際にフロアーを汚さないように袋に入れること。
 - 指定のかごに入れられるものは、選手 ID、交換用ラケット（ケースから出しておく）、タオル、スクイズボトル、滑り止め剤までとする。救急セット、その他のものはベンチまたはコーチングシートで保管すること。
- 12 大会ウェアは(公財)日本バドミントン協会審査合格品とする。上衣の背中中央部には、縦20cm、横30cmの範囲内に校名及び姓の表示をすること。その際に、ユニフォームに直接ロゴや文字をプリントしている場合は、ゼッケンの四隅を留めてそれを隠し、見えないようにすること。
- 13 試合前の練習時間については、シャトルは大会本部で準備し、団体戦の場合は各試合の前に2分ずつ行う。ダブルスはパートナーと行き、シングルスは対戦相手と行う。個人戦については同時に3分間とする。シングルスは対戦相手と行うこと。
- 14 マッチ(試合)中にけがや事故が生じた場合は、主審の判断により、マッチ(試合)を中断する。必要に応じて競技役員長(レフェリー)を呼び、その判断に従う。
- 15 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認められない。審判員の判定に対して疑問がある場合には、次のサービスがなされる前に個人戦ではプレーヤーが、団体戦では当該プレーヤーと監督に限り「質問」をすることができる。
- 16 上衣のすそは、下衣の中に入れて競技すること。
- 17 選手は、試合終了時に主審(サービスジャッジ)とも握手をするよう心がけて下さい。
- 18 試合中にモバイル機器(タブレット・携帯電話等)使用を禁止する。
- 19 棄権について
 - (1) 該当プレーヤーか監督がレフェリーに申し出る。
(棄権届用紙に必要事項を記載し、提出する)
 - (2) 対戦相手が棄権となった場合、勝者は選手招集のアナウンス後に、大会本部で勝者サインをする。
- 20 選手は選手集合所への集合を案内された場合、速やかに指定された座席へ着席をし、待機する。試合の開始に間に合わない場合は棄権となる。
- 21 試合中の怪我等の応急処置は主催者で行うが、その後の処置は各自の責任とする。
- 22 その他は監督会議における打ち合わせ事項に準ずる。